

平成22年度業務実績報告書に関する質問・回答（実績検証シートに付して提出されたもの等で未回答の部分）

項目の内容	項目番号	岐阜県総合医療センター		項目番号	岐阜県立多治見病院		項目番号	岐阜県立多治見病院																			
		委員質問	法人からの回答		委員質問	法人からの回答		委員質問	法人からの回答																		
1-1-1 より質の高い医療の提供 (1) 高度医療機器の計画的な更新・整備 (2) 長時間勤務の改善等働きやすい環境の整備	01	画像診断の稼働率は良い。アプリケーションシステムは。	22年12月導入 22年度20件稼働、23年度は7月までに17件稼働した。	01	機器の年度購入計画はあるのか。	毎年医療機器整備委員会で次年度の購入機器を決定し、それに基づき年度購入計画を作成している。																					
	02	セカンドオピニオンの数がセンターにしては少ない。どうしてか。	事前に予約し、30分10,000円負担している人の数であり、それ以外にセカンドオピニオン的な相談をしているが、通常の診断として、カウントしていない患者がいるのではと思慮する。																								
	06	臨床インディケーターの公表が見当たらないが、どうか。 臨床パスの導入に対する患者満足度調査を行っているか。	今後(できれば今年度中)公表する方向で検討中 患者満足度調査において、「医師からの診断・病名についての説明」を調査項目に入れている。	06	臨床インディケーターの公表が見当たらないが、どうか。 臨床パスの導入に対する患者満足度調査を行っているか。	現状では、ホームページの各診療科の案内において手術や検査件数の公表を行っているものの、病完全本としての公表は行っていないが、今後公表する方向であり、公表事項などの検討を行っているところである。 H22年度は実施しなかったが、今後、多くの患者に適用しやすいように改善を図るため、毎年実施している患者満足度調査と併せて実施することを検討中。 インシデント等の事例に対しては、従前から発生都度、医療安全部へ報告のうえ全て対策を講じている。 RCAによる分析は行っていないが、H23年度から開始することとした。	06	臨床パスの導入に対する患者満足度調査を行っているか。	患者満足度調査は実施しているが、臨床パスの導入に対する満足度調査は行っていない。																		
(7) 医療安全対策の充実	07	RCA、根本原因分析は行われているか。	全ての事案について原因分析を実施しているが、RCAについては、重要なインシデント・アクシデントが発生した場合に実施している。	07	RCA、根本原因分析は行われているか。																						
(8) 院内感染の発生原因の究明及び感染防止対策の確立のための体制整備							08	ICTによる院内巡視が定期的に行われているか。	院内巡視は実施されている。																		
1-1-2 患者・住民サービスの向上 (1) 待ち時間などの改善等	09	待ち時間をどれだけ減らすかということを数値で目標設定できないか。	22年9月に患者サービス委員会において実施した「待ち時間調査」の結果を委員会で公表し、各診療科においてその対応に取り組んだ。 外来待ち時間対策として、患者に合わせた、検査・診療・治療のオーダーによる院内滞在時間の縮減や待ち時間の有効活用を実施した。 超音波検査は検査部位によって機器が異なるため一律の時間縮減が困難であるが、検査予約枠の運用見直しにより出来る限りの待ち時間の縮減を目標としている。 CT（1週間）、MR（2週間）が将来的な目標である。 手術待ちに関しては、麻酔科の増員を図り手術予約枠の増加を行い、手術稼働率・総手術件数の増加につなげた。 待ち時間の目標数値設定は、患者の状態などによって診療時間に長短があり困難であるため恒常的な待ち時間の生じる部署については常に改善を図っていく。	09	待ち時間をどれだけ減らすかということを数値で目標設定できないか。	H23年1月に外来待ち時間調査を実施し、待ち時間の把握を行った。 その結果、診察予約時刻と開始時刻との間隔が30分以上の患者割合が高かった診療科は2科だった。いずれの科も医師不足が要因と思われ、医師の確保が課題となっている。 待ち時間改善のための目標値の設定については、患者の症状等によって診療時間はまちまちとなり、数値目標の設定は困難である。	09	待ち時間をどれだけ減らすかということを数値で目標設定できないか。	待ち時間を把握する取組はH21年度、H23年度に実施している。H21の調査結果より待ち時間の問題が顕在化していないと把握しており、H22年度はその現状を維持するべく、待ち時間対策として患者への声かけや情報提供、待合室の巡視などの取組みを実施していることから「Ⅲ」としている。 21年度の調査結果の数値を目安に現状維持できるように取り組んでいるが、この数値をそのまま年度計画の目標値として記載してよいのか疑問である。 現状はアンケート方式により待ち時間の把握をしているが、客観的な目標値ということになれば、精密な調査を行う必要があると思われる。 下呂病院の待ち時間の現状・調査にかかる労力、診療への影響等など総合的に考えて、具体的な目標値の設定は行わないようにしたい。																		
(5) インフォームドコンセントの徹底 (6) セカンドオピニオンの推進	13	セカンドオピニオンの数が規模に比べて少ないが、どのような事情か。	事前に予約し、30分10,000円負担している人の数であり、それ以外にセカンドオピニオン的な相談をしているが、通常の診断として、カウントしていない患者がいるのではと思慮する。	13	セカンドオピニオンの数が規模に比べて少ないが、どのような事情か。	ホームページなどで、患者や地域医療機関に対しセカンドオピニオンを受け付けている旨の広報活動等を行っている。	13	セカンドオピニオン実施数。	セカンドオピニオン制度の説明より、治療方法を選択する機会を提供している。(選定による他院への情報提供の件数 6件) なお、当院へのセカンドオピニオン希望は先ず考えられない。																		
(7) 患者支援システム(メタリクシントーム予防センター)の創設	15	患者数に対して糖尿病教室受講者が少ないのは、	集団指導より、個別指導を重点を置いたため。 23年度より、教室の開催を月1回から2回に増やした。																								
1-1-3 診療体制の充実 (1) 患者動向や医療需要の変化に即した診療	16	新規の患者の事前予約件数などを記載していただけないか。	診療所からの事前予約により総合医療センターへ来院した人数等 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>21年度</td> <td>22年度</td> </tr> <tr> <td>事前予約人数</td> <td>7,925人</td> <td>8,572人</td> </tr> </table>		21年度	22年度	事前予約人数	7,925人	8,572人	15	新規の患者の事前予約件数などを記載していただけないか。	診療所からの事前予約により多治見病院へ来院した人数等 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>21年度</td> <td>22年度</td> </tr> <tr> <td>事前予約人数</td> <td>7,408人</td> <td>8,259人</td> </tr> </table>		21年度	22年度	事前予約人数	7,408人	8,259人	15	新規の患者の事前予約件数などを記載していただけないか。	診療所からの事前予約により下呂温泉病院へ来院した人数等 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>21年度</td> <td>22年度</td> </tr> <tr> <td>事前予約件数</td> <td>1,137件</td> <td>1,098人</td> </tr> </table>		21年度	22年度	事前予約件数	1,137件	1,098人
	21年度	22年度																									
事前予約人数	7,925人	8,572人																									
	21年度	22年度																									
事前予約人数	7,408人	8,259人																									
	21年度	22年度																									
事前予約件数	1,137件	1,098人																									

項目の内容	項目番号	岐阜県総合医療センター			項目番号	岐阜県立多治見病院			項目番号	岐阜県立多治見病院				
		委員質問	法人からの回答			委員質問	法人からの回答			委員質問	法人からの回答			
体制の整備 充実			初診患者数 予診割合	35,216人 22.5%	35,070人 24.4%		初診患者数 予診割合	31,466人 23.5%	31,331人 26.4%		初診患者数 予診割合	11,251人 10.1%	10,506件 10.5%	
(2)多様な専門職の積極的な活用	17	放射線科、麻酔科専門常勤医は規模に比して揃っているか。	放射線治療科(22,23年度とも1人) 放射線診断科(22,23年度とも2人) 麻酔科(22年度4人、23年度5人)								初診患者数 予診割合		11,251人 10.1%	10,506件 10.5%
1-1-5 重点的に取り組む医療 (1)救命救急センター(救命救急医療)	21	救急車による入院率は、	21年度4,328件中1,822件入院 42.1% 22年度4,888件中1,993件入院 40.8%								<業務実績報告書記載数値>			
(2)集積したエビデンスのコンサルンス、臨床研修、臨床研究等への活用	29	臨床インディケーターはどうなっているか。	今後(できれば今年度中)公表する方向で検討中		28	臨床インディケーターはどうなっているか。	現状では、ホームページの各診療科の案内において手術や検査件数の公表を行っているものの、病院全体としての公表は行っていないが、今後公表する方向であり、公表事項などの検討を行っているところである。		24	臨床インディケーターはどうなっているか。	各部門において必要な「臨床指標」については、統計・分析を行い、病院運営上のデータとして利用している。 臨床インディケーターで掲げられるような指標について、当院では例数が少なく活用することが出来ない指標が多くある。			
1-4-1 地域医療への支援 (1)地域医療水準の向上					35	地域医療従事者に対する研修の場の提供が少ないのでは。	計画に記載した事項以外にH22年度以下のおり地域医療従事者対象に研修を実施している。 ○緩和ケア関係 ・緩和ケア学習会 (6/18、2/22) ・緩和ケア講演会 (5/27) ・緩和ケア市民公開講座 (10/8、12/2) ・緩和ケア医師研修 (10/2、10/3) ○医療連携関係 ・医療連携講演会 (8/19、2/16) ・がんサージボード (7/26、11/1、3/4) ○精神科関係 ・東濃精神科医療連絡会 (5/30、7/24、10/23) ○その他 ・DPC講演会 (10/15)		25	公開市民講座が開催されていますか。	市民公開講座 「下呂背骨の病気をセミナー」 H22. 11. 6(土) 「おとなの心臓教室」 H22. 11. 27(土)			
(2)医師不足の地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援など人的支援	37	医師派遣の給与の処理はどうなっているか。	最終的には、派遣先の負担となる。		36	医師派遣の給与の処理はどうなっているか。	派遣に関する協定を締結し、医師の派遣期間の給与相当分を派遣先が法人へ支払うこととしている。派遣される医師へは、旅費のみが派遣先から支給される。		33	医師派遣の給与の処理はどうなっているか。	当院と派遣先病院において、派遣費用の取り決めを行っている。 派遣先の病院は、派遣医師の活動時間に対応した人件費相当額を下呂温泉病院に対して負担することになっており、下呂温泉病院はその負担額を病院会計で収入している。			
(3)へき地医療対策の支援	38	医師不足地域に派遣する病院の基準は決められているか。	県とへき地医療対策推進業務について、業務委託契約を締結した上で業務を実施											
1-4-2 社会的な要請への協力 医療に関する鑑定や調査、講師派遣	39	派遣に係る講師料の取扱いはどうなっているか。	地方独立行政法人岐阜県総合医療センター職業兼業規程(平成22年4月1日 規程第21号)にもとづき取り扱っている。		37	派遣に係る講師料の取扱いはどうなっているか。	地域の要請に応じ講師を派遣する場合は原則として無償としている。また講師料が支払われる場合は、事務局職員から理事長に講演会の内容や謝金の額について届出を出させている。		34	派遣に係る講師料の取扱いはどうなっているか。	当院と派遣先機関において、派遣費用の取り決めを行っている。 派遣先機関は、派遣職員の実働時間に対応した人件費相当額を下呂温泉病院に対して負担することになっており、下呂温泉病院はその負担額を病院会計で収入している。			
2-1-1 簡素で効果的な組織体制の確立 (3)アウトソーシング導入による合理化	46	医療画像情報ディスク自動発行システムを導入した方が経済的か。	導入の検討を実施したことはない。											
2-2-1 多様な契約手法の導入	53	委託業務のチェック機能を向上するための効果的な施策はあるか。	委託業務に関し、業務現場で検査者を定め検査を行うとともに、事務担当者が再度チェックを行う2重チェック体制をとることで業務の確実な施行管理を努めている。		41	委託業務のチェック機能を向上するための効果的な施策はあるか。	平成23年度からコンサルタント会社によるチェックを実施予定		46	委託業務のチェック機能を向上するための効果的な施策はあるか。	調査担当者において保守の発生する医療機器の購入時はメンテナンスも含めた契約の可能性を検討しているため、自己評価を「III」とした。			

項目の内容	岐阜県総合医療センター		岐阜県立多治見病院		岐阜県立多治見病院	
	項目番号	委員質問	法人からの回答	項目番号	委員質問	法人からの回答
		数値目標の明確化が必要	材料比率(材料費/医業収益)30%以下を目安として取り組んでいる。			契約については法人化後も「契約審査会」を設置して委員により契約方法・内容のチェックが行われている。
2-2-2 収入の確保 (1)効果的な病床管理、 医療機器の効率的な活用 (2)未収金の発生防止 対策等	54	共同指導回数が少ないのではないか。	近年、減少傾向にあるので、23年度は、月平均15回程度を目標に取り組んでいる。			
	55	診療費の追加請求が生じた場合に未収金となるような場合はあるか。	追加請求が未収金の要因となっていることは承知しているが、追加請求のみを分けての件数は把握できていない。	53	診療費の追加請求が生じた場合に未収金となるような場合はあるか。	47 患者の滞りなく支払われず未収となるケースがある。
2-2-3 費用の削減	57	薬品や診療材料の払い出しデータと請求データとの照合は実施しているか。使用効率、購入効率については把握されているか。	払い出しデータと請求データとの照合は実施していないが、物品管理システムで払い出しと請求情報の送信を行っているため、数量の管理はなされている。使用効率、購入効率については、把握している。	54	薬品や診療材料の払い出しデータと請求データとの照合はされているか。使用効率、購入効率については把握されているか。	49 薬品や診療材料の払い出しデータと請求データとの照合はされているか。使用効率、購入効率については把握されているか。
8-1 職員の就業環境の向上	60	<変形労働時間制等> 学校の夏休みについての対応はとられているか。	学校の夏休みについては、夏期休暇(4日)の完全取得を指導した。	57	<適切な労働時間管理など> 学校の夏休みについての対応はとられているか。	56 <医療従事者の負担軽減> 学校の夏休みについての対応はとられているか。